

第15回つくばリサイタルシリーズ報告書

ほのカルテット～弦楽四重奏の魅力进行明かす～

つくばリサイタルシリーズ実行委員会

関珠暖 土肥幸奈 北濱奏穂

1. つくばリサイタルシリーズ実行委員会について

つくばリサイタルシリーズ実行委員会は、つくば市においてプロの演奏家を招聘し、クラシックコンサートをプロデュースする筑波大学の学生団体である。つくばの学生および市民が経済的に大きな負担を伴わず、本物のクラシック音楽に触れる機会を提供することを目的としており、2021年で10周年を迎えた。通常プロの演奏を聴くためには、高額なチケットを購入する必要があるが、会場が東京などの大都市に限られていたりするため、クラシックに対して親しみにくい印象を抱く人も多い。その意識を変えるため、つくば市民にとって身近な場所で、手頃な価格でクラシックを楽しむことを目指した本シリーズの基本方針は、例年のアンケート結果を通じて来場された皆様からも高い評価を受けている。企業協賛やクラウド・ファンディングといった手段により資金を確保し、可能な限り低価格かつ高品質な演奏会を実現できている。

2. 事業の概要

事業名：第15回つくばリサイタルシリーズ『ほのカルテット～弦楽四重奏の魅力进行明かす～』

実施日：2025年1月25日

場所：つくばカピオ ホール

価格：一般 1,500円 学生無料(要申込)

出演：ほのカルテット

岸本 萌乃加 (ヴァイオリン)

林 周雅 (ヴァイオリン)

長田 健志 (ヴィオラ)

蟹江 慶行 (チェロ)

曲目：江藤光紀/弦楽四重奏第4番「シュンポジオン」

ベンジャミン・ブリテン/弦楽四重奏曲第2番 作品36

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン/弦楽四重奏曲第7番 へ長調Op.59-1

「ラズモフスキー第1番」

フランツ・ヨーゼフ・ハイドン/Op.64-6第1楽章 (アンコール)

3. 当日の様子



会場準備



リハーサル



演奏会中



終演

4. 活動の達成度

4-1 演奏会の趣旨について

第15回つくばリサイタルシリーズでは、ほのカルテットの皆様をお招きし、演奏会を行った。

今回の演奏会では「弦楽四重奏の魅力を解き明かす」という副題を設定し、現代から古典までの弦楽四重奏の名曲を演奏していただいた。また、曲間に演者によるトークが入ることで、弦楽四重奏の知識があまりないお客様に対しても、「弦楽四重奏の魅力」を伝えることができたのではないかとと思われる。

4-2 広報について

今回の演奏会は、7月末にお知らせを行い、1月中旬に本番を迎えた。チケットの売れ行きは序盤からあまり勢いがなく、筑波大学の学内サイトへの投稿や学生間のLINEグループによる告知などを行ったが、なかなか売れ行きに繋がらなかった。直前期には、他の演奏会でのチラシの挟み込みや、近隣の音楽団体に所属する子どもとその家族を招待するなどして売れ行きを伸ばしたが、最終的には全体の30%ほどの空席が残る結果となった。

客層は、20代を中心に10代から70代まで幅広い世代が来場し、音楽経験の有無に関わらず、多様な人々が見られた。

ブログでは、出演者やプログラムの発表、チケット案内などの告知に加え、曲目紹介や出演者のYouTubeチャンネルの紹介、出演者へのインタビュー記事など、さまざまなコンテンツを継続的に投稿できた。インタビューは出演者全員と学生複数名がオンラインで行い、学生目線での質問も取り入れた充実した内容の記事を作成することができた。

今回の課題として、X（旧Twitter）やInstagram、FacebookなどのSNSをうまく活用できなかった点が挙げられる。実際、来場者が演奏会を知ったきっかけとして、知人からの紹介やチラシ・ポスターが多く、SNSを通じて来場した人は少ない傾向にあった。これらのSNSは、演奏会の主な客層である学生世代にアプローチするための重要なツールであるため、今後はこれらのSNSの運用を委員会全体で取り組み、継続的に投稿を行ってきたい。

4-3 運営について

前回の第2回TRSサロンシリーズを経て、実行委員も当日の流れをある程度把握した上で本番を迎えることができたと思われる。当日の運営人数は12人と少人数であったが、問題なく運営をすることができたと感じている。しかしながら、事前のミーティングへの参加率が低かったため、当日の詳細について把握している委員がそれほど多くなかったという点は課題として挙げられる。この点は次回以降の反省点として、ミーティングへの参加を促し、丁寧かつ迅速な情報共有を心がけることを意識する必要があることを痛感した。また、今回は11月の直前期にも新歓を行った。直前期は作業も多くなり、人手が必要になる

ため、非常に効果的であったと感じる。

ホールの使用に際しては、事前の打ち合わせ通りに進んだと思われるが、駐輪場の案内については、対策を講じる必要があり、この点は今後の反省としたい。

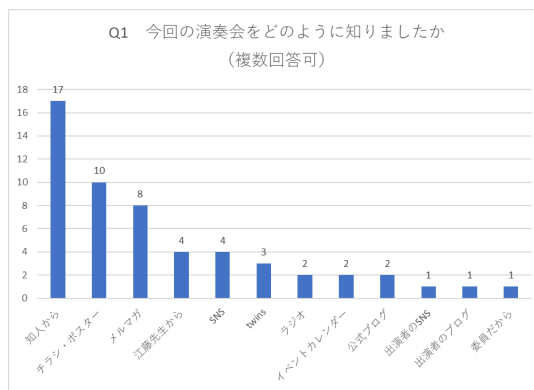
4-4 会計について

今回は一般チケットを一枚¥1,500 で販売した。teket での販売数は学生席156枚、一般席42枚となり、teket での売り上げは、¥63,000となった。ホールチケットおよび当日券も販売し、特に当日券については例年よりも多く販売することができた。今回は、広報の課題と関連して、チケットの販売が伸び悩んだ部分もあったが、直前期の売り上げの伸びは目覚ましいものであり、今後の対策を講じる際の参考にすることが可能であると考えられる。

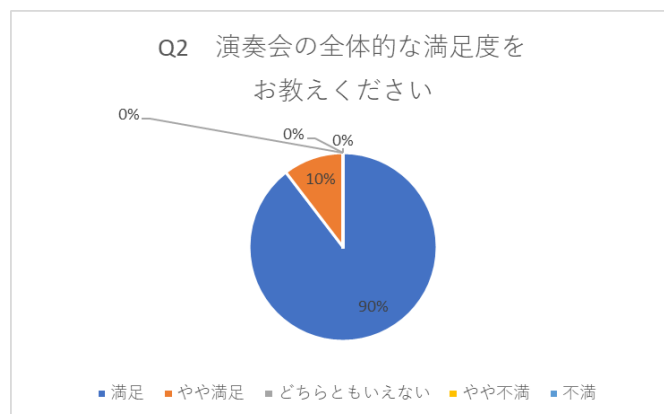
また今回は、企業協賛、茗溪会、筑波大学「世界を変えよう基金」による助成を受けた。助成金として、関彰商事株式会社から¥30,000、免キラつくばベースから¥10,000、茗溪会から¥84,000、筑波大学「世界を変えよう基金」から¥20,000の支援を頂いた。今回は、クラウド・ファンディングも行い、総額¥111,000の支援を頂いた。

今回、収入は計¥396,700、支出は計¥462,678となった。チケット販売による収入が少なかった点が赤字の最大の原因であると思われる。不足分に関しては、前回までの繰越金や江藤先生からの寄付により補う予定である。

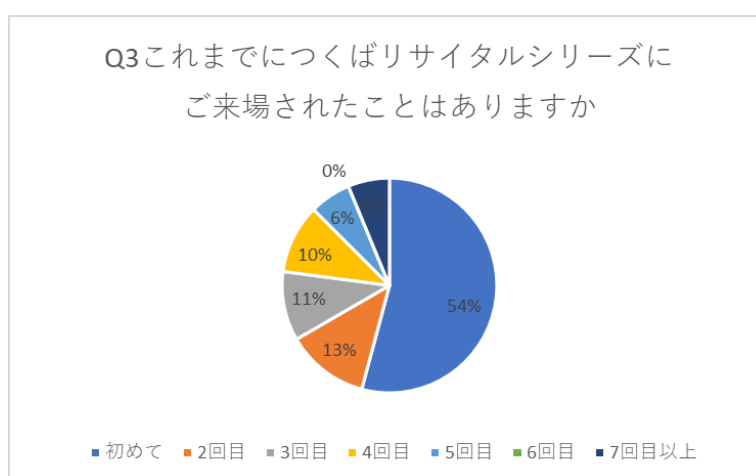
4-5 アンケート分析



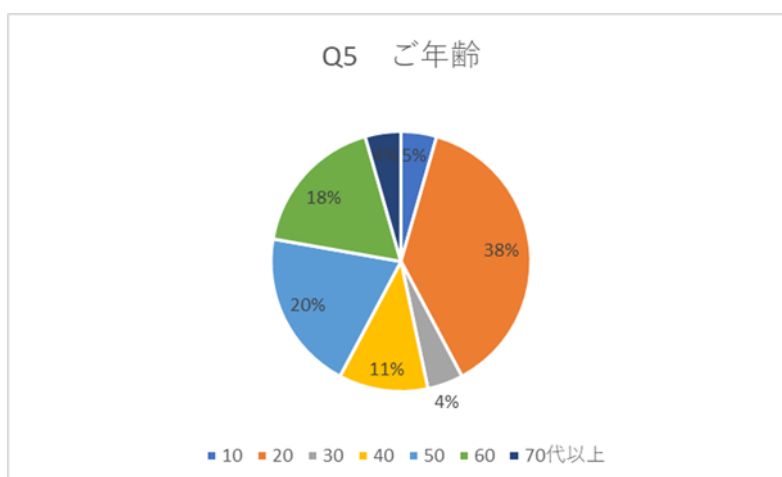
アンケートの結果、知ったきっかけで最も多かったのは「知人からの紹介」だった。次に「チラシ・ポスターを見て知った」という回答も多く、宣伝の効果があったと考えられる。一方で、「SNS を通じて知った」という回答は少なかった。次回以降は SNS の発信を強化し、より多くの人に知ってもらえるよう取り組みたい。

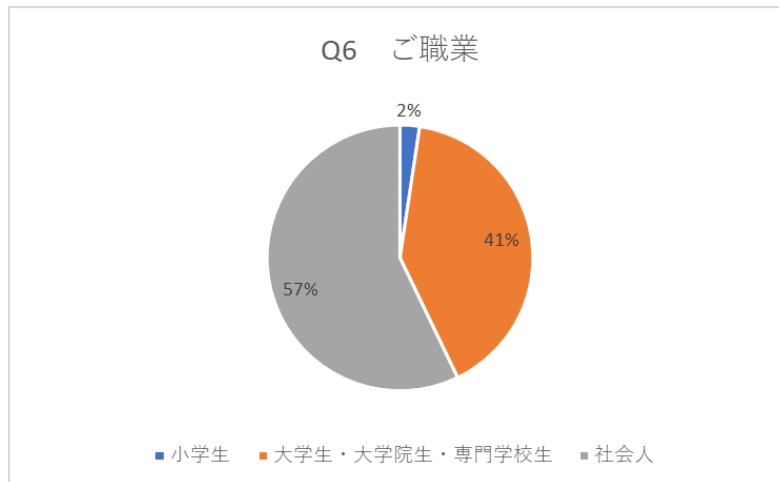


9割の方に満足いただけたのでとても良い結果だと思う。



初めての方と2回目以上のリピーターの方がほぼ半数ずつという結果になった。「つくばリサイタルシリーズ」をまだ知らない方への新たな宣伝と、既に知ってくださっている方への継続的な宣伝を行っていく必要があることがわかる。





Q9、Q10 より年齢、職業共に様々な層の方の来場があったことが分かる。

5. 総評

第15回つくばリサイタルシリーズは、新進気鋭の弦楽四重奏団であるほのカルテットの皆様をお招きし、「弦楽四重奏の魅力を解き明かす」という趣旨で、演奏会を行った。プログラムに関しては、現代から近代に遡っていくという構成になっており、曲間に挟まれた林さんと蟹江さんによるトークも軽快でわかりやすく、演奏会の趣旨に相応しい内容であったと思われる。お客様からも好評であり、新たに「魅力を解き明かす」シリーズの設定についても検討の余地があると言えるだろう。

前回の第2回TRSサロンシリーズで課題として挙げたアンケートの回答数については改善が見られた。アンケートの回答からお客様の感想や今後への期待などをいただくことが多いため、アンケートの回答数が上がったことに関しては喜ばしい限りである。

しかしながら、資金運用やSNSの運用、ミーティングへの参加率など、改善に至らなかった点も多々ある。特にSNSの運用については、新規顧客の開拓や地域社会への貢献といった点からも重要視されるべき点であると考えられるため、今後より一層の対策を練っていききたい。

前回に引き続き、今回も出演者の方との交流を盛んに行うことができたのは、よかった点であると思われる。出演者との交流は、委員の積極性ややりがいといった点につながると考えられるため、今後も出演者の方々との積極的な交流を図っていききたい。